秋工同窓会静岡支部　支部だより　第45号　令和3年9月

新型コロナ感染症による長い自粛生活に、誰しも心身ともに疲弊してきました。全国で自治会活動始め各種の団体活動も中止の声ばかりで、人の繋がりが断絶する殺風景な社会になっております。

当同窓会に於いても例外に無く、総会の2年連続中止を止むなく、また役員会での相談も出来ない状態になっております。

伝統ある秋工の同窓の絆をなんとか繋ぎ止めたい一心から、事務局の稚拙な知恵を絞って、支部だよりの追加発行をすることにしました。 内容は、活動していないので活動報告は無く記事に困りましたが、静岡県で何十年暮らそうとも、誰もが忘れることのない郷里:秋田県のことを、採り上げようと思いました。

幸なことに、東レ㈱を定年退職後、長泉町から秋田市へ移住を決心された小田嶋昭夫さんが、快く協力して下さったので、彼の秋田県人新人が感じた現在の秋田の状況を、随筆に記したものを会員皆様にお届け致します。 コロナ禍での日常に、少しでも気持ちがほぐれるよう役に立ちましたら事務局として大変嬉しいことであります。 （2～4頁に記載:【ふるさとの四季】）

新支部長に　鈴木富二夫さん

郵送役員会開催　６月

コロナ感染防止上、役員会の会合も開催できないことから、議題を郵送し、ハガキで答える方式で6月役員会としました。

支部役員15名の内、幹事長除く14名に郵送し、海外勤務などを除き11名の回答を戴きました。

決議事項を報告します。

1・本年度の支部総会を中止します。(満場同意)

2・支部長改選・・・前支部長:高橋圭司氏と幹事長大槻が推薦し、R2年9月役員会にて内定していた鈴木富二夫氏:S46機械・三島市を満場承認。

集会が出来ないため、総会承認無くても決定とし、令和3年4月より就任と致します。

3・本年度の会費徴収はナシとします。

4・小田嶋昭夫氏を、秋田駐在役員とします。東部役員の任にあった小田嶋氏を、秋田市移住後も役員として、秋田情報を伝えて戴きます。

5・幹事長改選について

幹事長の交代は、現幹事長として長年気に留めていた重要事項でありますが、昭和20年代生れ世代への推薦が、うまく出来ませんでした。

そこで、幹事長選出方法について役員に諮ったところ、次のような回答になりました。

A・役員会集会時に推薦する・・・4票

B・役員の投票で推薦する・・・・・1票

C・S39卒以降の役員集合で決める・・・3票

D・その他案・・・2票(支部の解散。会の在り方討議)

以上

進藤昭和さん逝く

静岡支部にとって最重要な人の一人、静岡市古庄の進藤昭和さんが、ここ一年ほどの療養の処薬石効無く他界されました。突然な事に驚きました。

8月21日営まれた通夜に、清水区の佐々木健男さんに支部代表で焼香をして戴きました。

進藤さんは、昭和60年頃より静岡支部創立準備から中心的に尽力された方の一人で、第2代幹事長を長くやって戴いた功労者でした。

誠に残念であります。 感謝！ご冥福を祈り　黙祷

支部会員のご意見を　寄せて下さい

昭和63年創立総会を開催して以来30年余、賑やかな同窓の会を催してきました。 東部には藤倉電線ﾗｸﾞﾋﾞｰ選手OBの猛者連もいました。 同窓会本部から会長が、母校から校長先生が、また東京秋工会の会長が出席して下さっての情報交換の総会を続けることが出来ました。

しかし、工業高校は最終学歴者が少なくなったり、製造業の海外流出など、社会構造の変化も有り、意識変化もあり、新入会員はほぼ無く、若いOB・OGの総会出席は無く、支部は低迷期に至っております。

同窓会に対するあなたのご意見を寄せて下さい！

任意参加の同窓会行事は、面白くなくてはいけませんが、面白くする提案を寄せて下さい。 また、不平・不満でも同窓会解散でも忌憚のないご意見を、同封のハガキに書いて投函してください。

記名・無記名どちらでも可。

卒年を記入し、全員必ず返信ください。・・・願・幹事長

※高橋圭司前支部長様、支部運営をお疲れさんでした。 有難うございました！　感謝！！※

ふるさとの四季

同窓会本部

はじめに、秋工同窓会および静岡支部同窓会の物故者の皆様に、心より深く哀悼の意を申し上げます。この度、静岡支部同窓会【支部だより】に掲載戴きますこと、有難く感謝致します。

秋が深まる頃、55年の歳月を経て母校の学舎を目にした。 ふと思い出したのは、入学して間もなく、学級担任の物理の授業中に突然 「お前ら～うるさい！！ 全県トップの成績で入学したというのに、なんだ～このざま！！」 と叫ぶや否やバシャーンっと足元のバケツの水を、生徒の頭上に撒き散らしたのである。 田舎者の私には衝撃的だった。 翌年、ドクター先生は弘前高専の開校に合わせてご栄転された。

高校時代は往復5時間を通学するのが精一杯で、市内を巡る時間は無く、秋田市は殆ど無知に近い。 卒業後は、滋賀県（7年間）→千葉県（1.5 年間）→滋賀県（1.5年間）→静岡県（45年間）と転勤・移動した。

さて、秋田に移住後丸2年になる。 メリハリのある四季、ダイヤモンドの輝く星、肌から秋田を強く感じるが、秋田駅前の様子は当時とは程遠い。 人々の往来が少なく、車社会は全国同様だ。 “新型コロナ”による自粛行動は、知人・友人との会話の機会を妨げている。会話も方言は解るが、背景は判らず深く入れない。

その状況下で、元秋工校長：西聰氏（静岡支部総会に同席、現秋田県立大学教授）とは一献を交え、静岡支部の想いに花を咲かせた。

また、黒澤校長先生には、ご多忙の中を学校案内して戴いた。 流石に秋田県一の自慢の校舎は素晴らしい。 市中で見かける秋工生からは優秀な雰囲気を覚える。 これは確かなDNAの継承と表現したい。

ラグビー、陸上競技・駅伝、軟・硬式野球、サッカー、バレー等のスポーツ面の活躍は素晴らしく、学力も卒業生の進路がそれを証明している。

≪　春（3～5月）　≫

角館武家屋敷

“啓蟄の日”が過ぎてから暫くして、閉鎖した世界から抜け出すように躍動感のある春が訪れる。 心待ちにした大歓迎の時期であり、人々の表情も明るい。卒業シーズンが本格的となり、卒業式当日（3/2）には希望に溢れる多くの卒業生を目にする。

「卒業おめでとう」 と、卒業生の一人にお祝いの言葉を掛けた。 にっこりと微笑んだ表情には3年間の学舎生活を終えた達成感と、今後の希望と不安が入り混じっているようにも感じた。 その姿は過去の自分と重複し、胸が張り裂けそうな感動と懐かしさを覚えた。

緑が周囲に顔を出し、白黒の地面がカラーに変化して、一層春の息吹を感じさせる。 桜の開花は当時より1か月程早い。 若者たちは春の装いで街を闊歩する。

菜の花　ロード

街路樹は次から次へと花で着飾り（桜・ツツジ・サツキ・藤）、各々が自慢するかのように彩る。

5月下旬、ウグイスが囀る頃、ようやく本格的な春を肌で実感する。 大好きな山菜取りのシーズンが始まる。 大地を這い出し瞬く間に成長するワラビからは、人間の成長期の勢いを感じる。

やがて大好きな春は、連絡も断りもなく黙って過ぎ去る。

≪　夏（6～8月）　≫

千秋公園・堀の睡蓮の蕾が夏の到来を告げる。 やがて睡蓮からハスへとバトンタッチし、池一面を蓮花が埋め尽くす。 蓮花の蕾は桃のように色づき美味しそうに見える。 蓮花は2カ月以上に亘って咲き誇り、人々に楽園をもたらす。

一方、幼少の頃の水との戯れは、今は河川の汚染と熊の出現で全く期待できない。 今年6月のある日、中学の同級生が雄物川河口の鱸(スズキ)釣りを案内してくれた。 流木に腰を落として昔を語った。

日本海からの海風が心地よく肌を包み込んだ。 日本海を隔てて見える鳥海山は、協和中淀川から見る富士山に類似し、幼少の頃に記憶した勇姿が蘇る。

7月に入る頃、熱燗から缶ビールに変る。 飲み放題で中ジョッキ5杯も飲んだ輩の姿は想像できない。

東北・秋田県の夏は、夏の風物詩・祭りで熱く燃えると聞いていた。 未だに目にしたことのない“竿灯祭り”“大曲の花火”等は、新型コロナの影響で中止となったままだ。

矢嶋アケビ農園

千秋公園堀　の蓮

新型コロナは、人々を我慢強い人間として鍛えてくれるのだろうか？　と、前向きに解釈している。 仲間と共にジョッキを手に語り合える日を願うばかりだ。

我家の夏自慢は、農家に見劣りしない家庭菜園である。 菜園の幸は夏を乗り切る私のエネルギー源でもある。 今年は大豊作で隣近所にお裾分けした。 皆さんから一様に美味しかったと喜んでいただいた。

≪　秋（9～11月）　≫

乳頭温泉

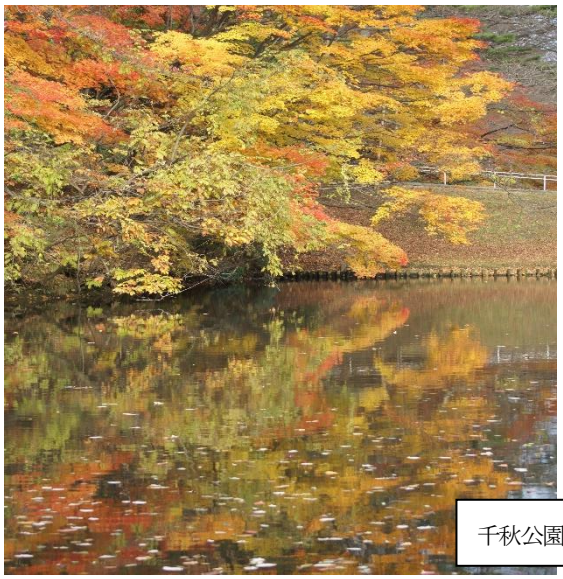
秋田は『味覚の秋』に相応しい。 リンゴ・ブドウ・ナシは全県の各地で栽培している様だ。 天王にある農園に、ブドウとリンゴ狩りに出かけた。 採りたての果物は色合い、味ともに新鮮で格別だ。 長泉町の庭にあった美味しい甘柿を思い出す。

精一杯暑さに耐えて地球環境に貢献した緑樹も、衣替えの時期に入る。 街路樹が色づき、ドライブ中の車窓から見る紅葉は、美しく素晴らしい。

一昨年、鳥海山、田沢湖・乳頭温泉、駒ケ岳、由利本荘方面の紅葉狩りを体験した。 京都の紅葉に匹敵する鮮やかさ・美しさを感じる。

加えて由利矢島では、天寿酒造とアケビ農園を見学した。 幼少の頃野山を駆け巡りアケビ採りに興じた日々は、川遊び同様に記憶に残る心の風景だ。 この地域に住む人々も同様に、心身共に美しいのだろうと推測すると心が豊かになる。

秋の深まりは、千秋公園を散策中紅葉の色彩変化から読み取ることができる。 色彩が減退して枯葉に近づく頃、枯葉同士の接触音はお互い去り行く秋を惜しむかのような囁きにさえ聞こえる。 季節的に感じる秋田の9月は夏気候であり、その分秋は短く感じる。



千秋公園　外堀

≪　冬（12～2月）　≫

秋田市の積雪は、昨年・今年とも12月だった。 昨年は年間の総積雪が20cm程度だったが、今年は40cmと多かった。

昨年は雪ダルマを造り、今年はカマクラを造った。いずれも歩行者が立ち止まって覗き見る様を目にすると、少しは癒しに役だったようだ。

冬の料理としては、ハタハタ寿司、ショツル鍋、カヤキ鍋等を記憶している。 ハタハタが殆ど獲れないようで、昔懐かしい味には巡り会えていない。 沼津港に隣接する長泉町で生活した私には、三島で味わったお刺身類が懐かしい。

秋田は漬物の種類が多い。 中でも“いぶりがっこ”は、どこでも販売している。 最近、中学校の同級生が自作するいぶりガッコにと巡り合った。

自作の　雪だるま

幼少の頃の味に最も近く懐かしかった。

やがて最大のイベントの正月を迎える。 神棚を飾り終え、妻の手作りのおせち料理を囲んで熱燗を嗜む。紅白歌合戦の時間帯は、深い眠りの中だ。

日照日は千秋公園を散策する。 積雪のある千秋公園は白銀の世界と輝く。 数年に一度の積雪があった三島・長泉の光景を思い出すひとときである。

三吉神社　梵天祭

『終わりに』

個人的には、秋田に戻って本当に良かった。 故郷を充分に知らずして生涯を終えるには心残りだ。 現役生活は長かったが、毎日がサンデーの現状では時間が充分にある。 公正さに対する感覚を磨き、足元を地に着けて確認すると共に広範に目配りし、興味があることには歳相応に取組んで前進するつもりだ。

帰省の際は、是非お立ち寄りください。 お待ちしております。 ご健康とご多幸を祈念しております。

秋田市千秋北の丸在住　　小田嶋昭夫　S39 化学

（akitakuni45@cna.ne.jp）

※個人情報流出対策に、編集・印刷・郵送・焼却全行程を事務局自宅で処理しています※